

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(社会情報学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： 社会情報学概論(1)

担当教員： 山口 真一

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-SI1-L101

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:02:05 更新者： AD1199

更新日時： 2024-02-09 16:15:58

履修条件・関連科目等

特にありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、社会情報学の基礎として、高度情報社会における情報技術の進化とそれが個人、社会、文化に与える影響を総合的に学びます。皆さんの身近にあるインターネットやソーシャルメディアが生み出す新たなコミュニケーション形態、情報の流れとその社会的影響、ネット炎上、偽・誤情報、デジタルメディアのリテラシー、個人データの活用とプライバシー問題、オンラインでのアイデンティティ表現、といった現代的な問題を多角的に考察します。

科目目的

この授業の主な目的は、学生が高度情報社会における様々な情報技術、特にインターネットとソーシャルメディアが個人、コミュニティ、社会全体に与える影響を深く理解するとともに、それらのテーマに関連する自分の考えを論理的に表現できるようになることです。

到達目標

- ・ 高度情報社会における情報環境や情報技術の変化とその社会的影響を多角的な視点から理解する。
- ・ 高度情報社会における様々な課題について、適切な対策を学ぶ。
- ・ 社会情報学に関連する内容について自分なりの考えを持ち、それを論理的に表現できるようになる。

授業計画と内容

1. 社会情報学への招待①：高度情報社会がもたらしたもの
2. 社会情報学への招待②：様々なコミュニケーション手段の台頭と変わる情報環境
3. オンラインコミュニケーション①：オンラインコミュニケーションの特徴と影響
4. オンラインコミュニケーション②：アイデンティティと自己表現とコミュニティ
5. 社会の分断と情報の偏り①：極端な意見がなぜネットで見られるのか
6. 社会の分断と情報の偏り②：ネットで意見が過激化するメカニズム
7. 社会の分断と情報の偏り③：すべての情報は偏っている
8. 偽・誤情報（フェイクニュース）と社会①：偽・誤情報の定義と事例
9. 偽・誤情報と社会②：偽・誤情報の歴史と特徴
10. 偽・誤情報と社会③：偽・誤情報の社会的影響と拡散の背景
11. 偽・誤情報と社会④：偽・誤情報の分析1
12. 偽・誤情報と社会⑤：偽・誤情報の分析2
13. 生成AIの衝撃：生成AIは何をもたらしたか
14. メディア情報リテラシー：情報社会の生き方

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 100% 毎授業レポート課題を課します。

平常点 0%
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回のレポート課題について、全体の講評を行います。
- ・毎回、特筆すべき点のあるレポートをいくつかピックアップし、どの点が優れているかを解説します。
- ・オンデマンド型授業となるので、上記好評は文字ベースで行います。
- ・これらの好評を皆さんのレポート改善の参考にしてください。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末

- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・オンデマンド型授業となるため、視聴にはインターネット環境とデバイスが必要となります。
- ・毎回の課題は、原則Microsoft Wordで作成していただきます。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

以下がテキストで、原則この内容に沿って授業が行われます。
山口真一 (2022) 『ソーシャルメディア解体全書: フェイクニュース・ネット炎上・情報の偏り』、勁草書房 (ISBN: 978-4326603503)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 社会情報学概論(2)

担当教員： 山口 真一

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-SI1-L102

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:02:05 更新者： AD1199

更新日時： 2024-02-09 16:16:48

履修条件・関連科目等

特にありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本授業では、社会情報学の基礎として、高度情報社会における情報技術の進化とそれが個人、社会、文化に与える影響を総合的に学びます。皆さんの身近にあるインターネットやソーシャルメディアが生み出す新たなコミュニケーション形態、情報の流れとその社会的影響、ネット炎上、偽・誤情報、デジタルメディアのリテラシー、個人データの活用とプライバシー問題、オンラインでのアイデンティティ表現、といった現代的な問題を多角的に考察します。

科目目的

この授業の主な目的は、学生が高度情報社会における様々な情報技術、特にインターネットとソーシャルメディアが個人、コミュニティ、社会全体に与える影響を深く理解するとともに、それらのテーマに関連する自分の考えを論理的に表現できるようになることです。

到達目標

- ・高度情報社会における情報環境や情報技術の変化とその社会的影響を多角的な視点から理解する。
- ・高度情報社会における様々な課題について、適切な対策を学ぶ。
- ・社会情報学に関連する内容について自分なりの考えを持ち、それを論理的に表現できるようになる。

授業計画と内容

1. コミュニケーション技術と個人：他者との比較やインターネット中毒の問題
2. データ活用の功罪①：データ活用とビジネス
3. データ活用の功罪②：個人データの活用とプライバシー
4. ネット炎上と誹謗中傷①：人類総メディア時代のネット炎上
5. ネット炎上と誹謗中傷②：炎上の分類と事例、炎上が広まるメカニズム
6. ネット炎上と誹謗中傷③：炎上の分析1
7. ネット炎上と誹謗中傷④：炎上の分析2
8. ネット炎上と誹謗中傷⑤：炎上の分析3
9. ソーシャルメディア・マーケティング①：SNSを活用したマーケティングとソーシャルリスニング
10. ソーシャルメディア・マーケティング②：様々なSNS活用と新たなビジネスモデル
11. 社会的対策①：国内外のインターネット政策動向
12. 社会的対策②：プラットフォーム事業者の対策
13. 社会的対策③：ステークホルダー間連携
14. 総括：情報社会を近代史でとらえる

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 100% 毎授業レポート課題を課します。

平常点 0%
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・毎回のレポート課題について、全体の講評を行います。
- ・毎回、特筆すべき点のあるレポートをいくつかピックアップし、どの点が優れているかを解説します。
- ・オンデマンド型授業となるので、上記好評は文字ベースで行います。
- ・これらの好評を皆さんのレポート改善の参考にしてください。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室中での授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・オンデマンド型授業となるため、視聴にはインターネット環境とデバイスが必要となります。
- ・毎回の課題は、原則Microsoft Wordで作成していただきます。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

以下がテキストで、原則この内容に沿って授業が行われます。
山口真一 (2022) 『ソーシャルメディア解体全書: フェイクニュース・ネット炎上・情報の偏り』、勁草書房 (ISBN: 978-4326603503)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: **メディア・コミュニケーション学(1)**

担当教員: **松田 美佐**

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-ME2-L111

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:02:06 更新者: AA0327

更新日時: 2023-11-26 16:19:51

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、メディア・コミュニケーションと社会の関係性を理論的にとらえた上で、うわさ（ロコミ）から、新聞、ラジオ、テレビ、電話といった「古い」メディア、およびケータイやインターネットといった比較的「新しい」メディアが「ある」社会の特徴を議論し、理解することで、今後さらに新しいメディアが登場する未来の社会のありようを考えるための「材料」や「手段」を身につけることを目標とする。

科目目的

この科目はカリキュラムマップの「専門的学識」の修得と強く関連し、加えて「幅広い教養」「複眼的思考」の修得も目的としている。具体的には以下の2点を目指すものである。

1. メディア・コミュニケーションに関する「理論」を理解し、身近な事例に当てはめることができるようになること
2. メディア・コミュニケーションに関する自分の「あたり前」を相対化し、多様な視点から考察できるようになること

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- ・メディア・コミュニケーションに関する「理論」を理解し、身近な事例に当てはめることができるようになること
- ・メディア・コミュニケーションに関する自分の「あたり前」を相対化し、多様な視点から考察できるようになること
- ・上記2点に関連する事柄に関して、一定時間内で論理的な記述を行うことができるようになること。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. メディア・コミュニケーションの現在 1 : ネット・ケータイを中心に
3. メディア・コミュニケーションの現在 2 : マスメディアを中心に
4. メディア・コミュニケーションの現在 3 : メディア文化を中心に
5. メディアのある社会/ない社会 1 ~ 行為主体決定論、文化反映論
6. メディアのある社会/ない社会 2 ~ メディア論的思考 マクルーハン
7. メディアのある社会/ない社会 3 ~ メディア論的思考 オング・ポストマン
8. メディアのある社会/ない社会 4 ~ メディアへの社会構築主義的アプローチ
9. うわさ: もっとも古いメディア
10. うわさとデマ、都市伝説
11. うわさと世論、報道
12. ネット社会のうわさ
13. 新聞の誕生と疑似環境論
14. 「新しい」メディアの19世紀

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	80%	論述試験を実施する。ただし状況によってはオンラインで対応する。
レポート	0%	
平常点	20%	オンラインのリアクションペーパーで評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- 次の方法を予定している。
- 1授業で用いるスライド資料、配布資料等は、manabaに掲載する。
- 2宿題などは、manabaを用いて回収する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メディア・コミュニケーション学(2) / メディア・コミュニケーション概論(2)を併せて受講すること。

参考URL

備考

科目名: **メディア・コミュニケーション学(2)**

担当教員: **松田 美佐**

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-ME2-L112

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:02:07 更新者: AA0327

更新日時: 2023-11-26 16:19:58

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この講義では、メディア・コミュニケーションと社会の関係性を理論的にとらえた上で、うわさ（ロコミ）から、新聞、ラジオ、テレビ、電話といった「古い」メディア、およびケータイやインターネットといった比較的「新しい」メディアが「ある」社会の特徴を議論し、理解することで、今後さらに新しいメディアが登場する未来の社会のありようを考えるための「材料」や「手段」を身につけることを目標とする。

科目目的

この科目はカリキュラムマップの「専門的学識」の修得と強く関連し、加えて「幅広い教養」「複眼的思考」の修得も目的としている。具体的には以下の2点を目指すものである。

1. メディア・コミュニケーションに関する「理論」を理解し、身近な事例に当てはめることができるようになること
2. メディア・コミュニケーションに関する自分の「あたり前」を相対化し、多様な視点から考察できるようになること

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- ・メディア・コミュニケーションに関する「理論」を理解し、身近な事例に当てはめることができるようになること
- ・メディア・コミュニケーションに関する自分の「あたり前」を相対化し、多様な視点から考察できるようになること
- ・上記2点に関連する事柄に関して、一定時間内で論理的な記述を行うことができるようになること。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. ラジオと電話の誕生
3. ラジオと映画のある社会 1 : プロパガンダと強力効果論
4. ラジオと映画のある社会 2 : 群集・公衆・大衆
5. ラジオとテレビのある社会 : 効果研究・普及研究・利用と満足研究
6. テレビのある社会 1 : 「他人指向型」・疑似環境論・メディア・イベント論
7. テレビのある社会 2 : マスメディアとスポーツ
8. マスメディアのある社会 まとめ
9. 電話のある社会 : 都市と選択の人間関係
10. 電話からケータイへ
 11. ケータイからスマホへ
 12. ケータイ・スマホのある人間関係
 13. コンピュータ、パソコン、インターネット : インターネットでつながる社会
 14. 総括・まとめ・到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	80%	論述試験を実施する。ただし状況によってはオンラインで対応する。
レポート	0%	
平常点	20%	オンラインのリアクションペーパーで評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- 次の方法を予定している。
- 1授業で用いるスライド資料、配布資料等は、manabaに掲載する。
- 2宿題などは、manabaを用いて回収する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メディア・コミュニケーション学 (1) / メディア・コミュニケーション概論 (1) を併せて受講すること

参考URL

備考

科目名: **社会心理学(1)(社会・集団・家族心理学Ⅰ)／社会心理学(1)** 担当教員: **安野 智子**

履修年度: 2024 学期: 前期 開講曜日時限: 金1 配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-SY2-L302

登録者: admin 登録日時: 2023-10-19 07:02:30 更新者: AA0229 更新日時: 2024-01-16 22:55:58

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

この授業では、現代社会心理学の基本的なトピックを紹介します。前期は、主に個人の心理過程に焦点を当てます。

科目目的

この授業では、現代社会心理学の基本的なトピックを紹介していきたいと考えています。前期は社会的認知に関する研究を中心に紹介していきます。私たちのものの見え方がいかに社会的な刺激に影響されているのか、また逆に、そうした見方がいかに社会に影響を与えているのか、考えていきたいと思えます。

到達目標

授業履修者が、社会心理学の主要なトピックのうち、「研究法」「認知的バイアス」「自己過程」「態度変容」などについて、基本的な知識を習得できること。また、人間の判断が、認知的・動機的バイアスや周囲の影響から自由でないことを理解できること。

授業計画と内容

1. ガイダンス：社会心理学とは何か
2. 社会心理学の研究法
3. 社会的認知（1）：スキーマと社会的推論
4. 社会的認知（2）：ヒューリスティクスとフレーミング効果
5. 社会的認知（3）：さまざまな認知的バイアス
6. 帰属過程
7. 偏見とステレオタイプ
8. 自己過程（1）：自己知識、自尊感情、社会的比較
9. 自己過程（2）：自己意識と自己呈示
10. 社会的影響過程（1）：態度変容と説得的コミュニケーション
11. 社会的影響過程（2）：権威への服従、多数派の影響過程
12. 対人的コミュニケーション（1）：攻撃行動と援助行動
13. 対人的コミュニケーション（2）：対人魅力
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	80%	主にmanabaの小テスト機能を使った試験を、学期中に2回程度実施する予定です。
期末試験	0%	
レポート	0%	

- 平常点 20% responによる授業のコメントで参加状況を判断します。ただし、参加率が7割に満たない場合は成績評価の対象外とします。
- その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを使用した学習支援

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

山田 一成・北村 英哉・結城 雅樹 (編) (2007) 『よくわかる社会心理学』 ミネルヴァ書房.

【参考文献】

Aronson, E., Wilson, T. D., Akert, R. M. and Sommers, S. R. (Eds.) (2015) "Social Psychology 9th Ed." Pearson.

林茂樹・飯田良明 (編) (2003) 『新版 社会心理学』中央大学生協同組合出版.

池田謙一・唐沢穰・工藤 恵理子・村本 由紀子 (2010) 『社会心理学』有斐閣.

オフィスアワー

その他特記事項

感染症などの状況によって、急遽変更になることもありうるので、manabaなどでの連絡には常に注意を払ってください。

参考URL

備考

科目名： 社会心理学(2)**担当教員： 安野 智子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 金1

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-SY2-L303

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:31 更新者：AA0229

更新日時：2024-01-16 22:55:25

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、現代社会心理学の基本的なトピックを紹介していきます。(2)では、集団・社会・文化の問題に焦点を当てます。

科目目的

この授業では、現代社会心理学の基本的なトピックを紹介していきます。(2)では、対人関係、集団・組織、ネットワーク、メディアコミュニケーション、文化の問題に焦点を当てます。

到達目標

授業履修者が、社会心理学の主要なトピックのうち、「対人コミュニケーション」「集団」「ネットワーク」「メディアコミュニケーション」「文化」などについて、基本的な知識を習得できること。また、現代社会の諸問題について、社会心理学的な観点から考察できるようになること。

授業計画と内容

1. 集団過程(1)：集団の課題遂行と生産性
2. 集団過程(2)：集団の意思決定
3. リーダーシップと組織
4. 社会的ジレンマ
5. ソーシャル・ネットワーク(1)：ネットワークの構造と社会関係資本
6. ソーシャル・ネットワーク(2)：スモール・ワールド・ネットワークとスケールフリー・ネットワーク
7. イノベーションの普及過程
8. メディア・コミュニケーション(1)：メディアと世論
9. メディア・コミュニケーション(2)：メディアの歴史とメディア効果論の変遷
10. メディア・コミュニケーション(3)：現代のメディア効果論
11. インターネットと社会
12. 文化(1)：「国際比較」の視点
13. 文化(2)：文化とコンフリクト
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	80%	主にmanabaの小テスト機能を使った試験を、学期中に2回程度実施する予定です。
期末試験	0%	
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	20%	responによる授業のコメントで参加状況を判断します。ただし、参加率が7割に満たない場合は成績評価の対象外とします。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを使用した学習支援

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

山田 一成・北村 英哉・結城 雅樹 (編) (2007) 『よくわかる社会心理学』 ミネルヴァ書房.

【参考文献】

Aronson, E., Wilson, T. D., Akert, R. M. and Sommers, S. R. (Eds.) (2015) "Social Psychology 9th Ed." Pearson.

林茂樹・飯田良明 (編) (2003) 『新版 社会心理学』中央大学生協同組合出版.

池田謙一・唐沢穰・工藤 恵理子・村本 由紀子 (2010) 『社会心理学』有斐閣.

その他、トピックごとの参考文献は授業中に指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

感染症などの状況によって、急遽変更になることもありうるので、manabaなどでの連絡には常に注意を払ってください。

参考URL

備考

科目名: **メディア文化の社会学(1)**担当教員: **辻 泉**

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-ME2-L304

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:02:31 更新者: AA1030

更新日時: 2024-01-09 18:23:29

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文化はわれわれの身の回りに日常的に存在するものだが、こうした身近な文化から現代の社会状況を理解していく。そのためにも、文化社会学の基本的な考え方を述べた上で、具体的な文化の現象を入り口に、現代の社会状況の理解を試みたい。一例として、ファンやオタクと呼ばれるような、一見すると異質で、それでも身近に存在する文化の現象などを取り上げながら、理解を試みたいと考えている。

講義の計画としては、おおむね前半7～8回を通して、文化に対するこれまでの様々な学問的なアプローチを比較検討したうえで、文化社会学的なアプローチ(マルチメソッド・アプローチなど)を紹介する。

そして後半7～8回を通して、いくつかのポイントに分けて、具体的な文化現象を取り上げてその理解を試みる。予定しているものとしては、自己・身体性の快樂に関わる現象としてSNSのコミュニケーションやファッションなどを、集団・関係性の快樂に関わる現象としてアイドルとそのファンなどを、社会・超越性の快樂に関わる現象として鉄道ファンなどを取り上げるつもりである。

科目目的

上記したような内容を通して、受講者が文化社会学の視座を理解し、そのアプローチを身に付け、自分でも、様々な文化現象の分析、理解ができるようになることが目的である。

到達目標

文化社会学の基本的な考え方・アプローチを理解すること、それを元にして、自分なりに文化社会学的な現象の分析をできるようになることが到達目標であり、成績の評価はこれに関する課題によって行う予定である。

授業計画と内容

- 第1回 初回アンケート
- 第2回 詳細なイントロダクション
- 第3回 文化社会学入門①: いまなぜ文化社会学か
- 第4回 文化社会学入門②: 文化はなぜ楽しいのか
- 第5回 文化社会学入門③: 文化とは何か
- 第6回 文化社会学入門④: 文化社会学とは何か
- 第7回 文化社会学入門⑤: 文化を分析するために
- 第8回 今日の文化①: 構造論から比較論へ
- 第9回 今日の文化②: 構造論から変動論へ
- 第10回 今日の文化③: 社会=超越性の快樂
- 第11回 今日の文化④: 集団=関係性の快樂
- 第12回 今日の文化⑤: 自己=身体性の快樂
- 第13回 今日の文化⑥: 応用編
- 第14回 今日の文化⑦: 文化のこれから

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	100% 中間レポート（45%）、期末レポート（55%）で配点予定である。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート（55%）および、中間レポート（45%）およびその他平常点などを加味して評価する。
毎回の講義では、manabaを利用してコメントを提出してもらい、毎回の理解度を確認する。特に優れたコメントについては、講義内で紹介し、適宜加点する予定である。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業時に、スマートフォンやタブレットを用いて、コメントを記入してもらうことがあります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>

南田勝也・辻 泉編『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房

<参考書>

(1) 「自己・身体性の快樂」について
米澤泉著『コスメの時代—「私遊び」の現代文化論』勁草書房
牧野智和著『自己啓発の時代—「自己」の文化社会学的探究』勁草書房

(2) 「集団・関係性の快樂」について
太田省一著『アイドル進化論—南沙織から初音ミク、AKB48まで（双書Zero）』筑摩書房
田島悠来著『「アイドル」のメディア史—『明星』とヤングの70年代』森話社

(3) 「社会・超越性の快樂」について
辻泉著『鉄道少年たちの時代—想像力の社会史』勁草書房
松井広志著『模型のメディア論—時空間を媒介する「モノ」』青弓社

その他、授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

後期に開講される「メディア文化の社会学（2）／メディアと文化（2）」とあわせて受講すること。
2024年度は、オンライン授業として、manabaのコースコンテンツを通して、オンデマンド配信（動画及び資料配布）で行う予定です。

※以下は、対面授業で実施する場合の注意事項。

講義中の私語やスマホ・携帯電話の私的使用などは、他の学生の迷惑になるので厳禁。また講義では板書を多用するが、スマホなどを用いてのその撮影も厳禁。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: **メディア文化の社会学(2)**担当教員: **辻 泉**

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-ME2-L305

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 07:02:31 更新者: AA1030

更新日時: 2024-01-09 18:24:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

今日、インターネットやスマートフォンなどに代表される新たなメディアの普及が進み、メディアに対する社会的関心は、ますます高まっている。この講義では、これらの新しいメディアから、これまでの古いメディアにいたるまで、メディアに関するさまざまな現象を社会的に考えていくことを目的としている。
我々が日々接するメディアに関心を向けることからスタートして(“現在”)、そうしたメディアやそれに関わる主な研究の歴史を振り返りつつ(“過去”)、これからのメディアについても考えていきたい(“未来”)。

科目目的

この講義では、メディア論と文化社会学について学ぶことを目的とするが、(1)はメディア論を主として扱う。特に、メディアを「なんとなく使う」、あるいはメディアに「使われてしまう」のではなく、各自が主体的にメディアを「使いこなせるようになること」を最終目標としたい。

到達目標

上記の授業目的を達するためには、①どんなメディアにも「功罪」があることに気づくこと、②そしてそれがこれまでの社会にどのように影響してきたのかを知ること、が重要である。そしてその上で、③これからどうすればよいのか、という点について、自分自身の考え方を展開できるようになってほしい。
メディアに「使われてしまう」のではなく、「使いこなせる」ようになること、そのために、あえて立ち止まって、メディアについて考えをめぐらせてみることで、これが到達目標である。

授業計画と内容

- 第1回 初回アンケート
- 第2回 詳細なイントロダクション
- 第3回 現在編①: メディアの功罪を考える
- 第4回 現在編②: メディアをめぐる管理と自由と「社会的ジレンマ」
- 第5回 現在編③: スマホ・ケータイの現在
- 第6回 現在編④: インターネットの現在
- 第7回 過去編①: ソシオ・メディア論の射程
- 第8回 過去編②: スマホ・ケータイの誕生
- 第9回 過去編③: インターネットの誕生
- 第10回 過去編④: ラジオの誕生
- 第11回 未来編① 未来像を複眼視する
- 第12回 未来編② メディア・コミュニケーションの未来
- 第13回 未来編③ デジタル文化の未来
- 第14回 未来編④ メディア社会の未来

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	100% 中間レポート（45%）、期末レポート（55%）で配点予定である。
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

期末レポート（55%）および、中間レポート（45%）およびその他平常点などを加味して評価する。毎回の講義では、manabaを利用してコメントを提出してもらい、毎回の理解度を確認する。特に優れたコメントについては、講義内で紹介し、適宜加点する予定である。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

授業時に、スマートフォンやタブレットを用いて、コメントを記入してもらうことがあります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
辻 泉・南田勝也・土橋臣吾編『メディア社会論』有斐閣

<参考書>
 (1) 現在編に関して
 橋元良明『メディアと日本人—変わりゆく日常』岩波新書
 佐藤卓巳『メディア社会—現代を読み解く視点』岩波新書
 坂村健『IOTとは何か—技術革新から社会革新へ』角川新書
 木村忠正『デジタルネイティブの時代—なぜメールをせずに「つぶやく」のか』平凡社新書
 藤代裕之『ネットメディア覇権戦争—偽ニュースはなぜ生まれたか』光文社新書
 松田美佐・土橋臣吾・辻 泉編『ケータイの2000年代—成熟するモバイル社会』東京大学出版会

(2) 過去編に関して
 ヴォルフガング・シヴェルブシュ著、加藤 二郎訳『鉄道旅行の歴史—19世紀における空間と時間の工業化』法政大学出版局
 吉見俊哉・若林幹夫・水越伸『メディアとしての電話』弘文堂
 クロード・S. フィッシャー著、吉見俊哉・松田美佐・片岡みい子訳『電話するアメリカ—テレフォンネットワークの社会史』NTT出版
 萩原滋編『テレビという記憶—テレビ視聴の社会史』新曜社
 飯田豊『テレビが見世物だったころ—初期テレビジョンの考古学』青弓社

吉田則昭編『雑誌メディアの文化史—変貌する戦後パラダイム[増補版]』森話社
マニユエル・カステル著、矢澤修次郎・小山花子訳『インターネットの銀河系—ネット時代のビジネスと社会』東信堂

(3) 未来編に関して
ケヴィン・ケリー著、服部桂訳『〈インターネット〉の次に来るもの—未来を決める12の法則』NHK出版
稲見 昌彦著『スーパーヒューマン誕生!—人間はSFを超える』NHK出版新書
ジェイミー・バートレット著、秋山勝訳『操られる民主主義—デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか』草思社
井上明人『ゲーミフィケーション—〈ゲーム〉がビジネスを変える』NHK出版
土橋臣吾・南田勝也・辻泉編『デジタルメディアの社会学』北樹出版

その他、授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

前期に開講される「メディア文化の社会学（1）／メディアと文化（1）」とあわせて受講すること。
2024年度はオンライン授業として、manabaのコースコンテンツを通して、オンデマンド配信（動画及び資料配布）で行う予定です。

※以下は、対面授業で実施する場合の注意事項。
講義中の私語やスマホ・携帯電話の私的使用などは、他の学生の迷惑になるので厳禁。また講義では板書を多用するが、スマホなどを用いてのその撮影も厳禁。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： デジタルメディア論

担当教員： 松田 美佐

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-ME2-L411

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:02:36 更新者： AA0327

更新日時： 2023-12-10 20:18:33

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

私たちの日常生活は、デジタルメディアの活用があたり前になっている。では、そのデジタルメディアがもたらす情報環境はどのようなものであり、人間関係や日常生活、社会にどのような影響を及ぼしているのか。私たちはデジタルメディアとどう関わり、デジタルメディアのある社会のこれからをどう構想できるのか。デジタルメディアの特性、およびデジタルメディアと社会の関わりを社会学的に理解することがこの授業の目的である。

科目目的

この科目はカリキュラムマップの「専門的学識」の修得と強く関連し、加えて「幅広い教養」「複眼的思考」の修得も目的としている。具体的には以下の2点を目指すものである。

1. デジタルメディアと社会の関係性を捉える学説・理論を理解し、身近な事例を論じることができるようになること。
2. デジタルメディアと社会の関係性を捉える学説・理論を学習し、現代社会を批判的に考察できるようになること。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とする。

- ・デジタルメディアと社会の関係性を捉える学説・理論を理解し、身近な事例を論じることができるようになること。
- ・デジタルメディアと社会の関係性を捉える学説・理論を学習し、現代社会を批判的に考察できるようになること。
- ・上記2点に関連する事柄に関して、一定時間内で論理的な記述を行うことができるようになること。

授業計画と内容

1. はじめに： デジタルメディア「以前」
2. モバイル化とパーソナル化
3. 非同期化と双方向化
4. ソーシャルメディアとフェイクニュース
5. ソーシャルメディアとネット炎上
6. ソーシャルメディアと人間関係
7. 見られる「不安」から見られる「安心」へ
8. 広告の個人化とオンラインショッピング
9. 安全安心で便利な「監視社会」
10. デジタル化する音楽
 11. イベントの変容1：メディア・イベントの誕生と変容
 12. イベントの変容2：参加型イベントの浸透
 13. イベントの変容3：「遠征」とオンラインライブ
 14. 全体のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 論述試験を実施する。ただし状況によってはオンラインで対応する。
レポート	0%
平常点	20% オンラインのリアクションペーパーで評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

次の方法を予定している。
1授業で用いるスライド資料、配布資料等は、manabaに掲載する。
2宿題などは、manabaを用いて回収する。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業中に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：図書館情報学概論

担当教員：小山 憲司

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-LI1-M101

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:40 更新者：AA1627

更新日時：2024-02-09 19:14:43

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

スマートフォンやタブレットPCなどのモバイル機器、Wi-Fiをはじめとするネットワーク環境が身近となった今日、図書を中心とした情報を収集し、整理・保存し、利用者に提供してきた図書館は、今後どのような役割を果たしていくべきであろうか。また、そのためにはどのような機能を有し、どのように運営していかなくてはならないであろうか。この科目では、現代社会における図書館の意義と役割、基本理念、それらを実現するための諸機能等について、図書館の抱える今日的課題についても触れながら、総合的に学習する。

科目目的

この科目は図書館情報学を学ぶための導入科目であり、カリキュラム履修上の「専門的学識」「幅広い教養」および「複眼的思考」と関連する科目として位置づけられる。図書館に関する基本的な知識や概念、専門用語の修得はもちろん、図書館を取り巻く環境やさまざまな課題をも理解することで、図書館情報学を探究する姿勢を身につけることを目的とする。

到達目標

- この科目では、具体的に次のことを目標とする。
- ① 図書館の意義と役割について理解し、説明できる。
 - ② 図書館の基本機能について理解し、説明できる。
 - ③ 図書館の種類と特徴について理解し、説明できる。
 - ④ 図書館を支える法制度、基本理念に関する基礎的知識を修得し、説明できる。
 - ⑤ 専門職としての図書館員の役割について理解し、説明できる。
 - ⑥ 図書館における現代的課題について多様な視点を理解し、概説できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報社会における図書館
- 第3回 図書館が扱う情報とはなにか
- 第4回 図書館の基本機能(1)：収集、整理
- 第5回 図書館の基本機能(2)：蓄積・保管、検索、利用
- 第6回 各種図書館とサービス対象者(1)：公共図書館
- 第7回 各種図書館とサービス対象者(2)：公共図書館におけるサービスの展開
- 第8回 各種図書館とサービス対象者(3)：国立国会図書館
- 第9回 各種図書館とサービス対象者(4)：学校図書館
- 第10回 各種図書館とサービス対象者(5)：大学図書館、専門図書館
- 第11回 図書館を支える法制度と基本理念(含グループワーク)
- 第12回 図書館経営と司書(含グループワーク)
- 第13回 図書館における現代的課題(含グループワーク)
- 第14回 まとめ、前期授業のふりかえり

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ① 事前課題として、配布資料の閲読、映像の視聴、宿題を課す(課さないこともある)。
- ② 事後課題として、小テスト、ふりかえり(コメントペーパーの提出)、映像の視聴、宿題を課す(課さないこともある)。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 科目の目的、到達目標に記した内容を達成できているかどうかを期末レポートにより評価する。
平常点	70% 授業中課題および宿題の提出状況および内容、授業への参加・貢献度を基準とする。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：参加率が7割に満たない場合は評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ①受講生からの質問は授業中のほか、メール、manabaの掲示板などを用いて回答する。
- ②オフィスアワーを設ける。具体的な時間は、初回の授業で連絡する。
- ③授業で課した課題は授業内で取り上げ、解説する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
 - ✓ タブレット端末
 - ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ①授業で用いたスライド資料、配布資料等は、manabaに掲載する。
- ②授業中、あるいは授業後にresponを用いて、アンケートやふりかえりを行う。また、回答結果を受講生と共有する。
- ③事前課題、もしくは事後課題として、映像資料を配信する。
- ④宿題、および期末レポートは、manabaを用いて回収する。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当者は、1997年4月から2006年3月まで、東京大学附属図書館等において、図書館職員として図書館サービス、情報組織化、電子情報資源の提供などの実務経験を有する。

実務経験に関連する授業内容

図書館実務にかかる話題にも適宜触れながら、授業を展開する。

テキスト・参考文献等

- (1) テキスト
・今まど子, 小山憲司編著. 『図書館情報学基礎資料』第5版. 樹村房, 2024. ISBN:978-4-88367-386-5
- (2) 参考文献
次に掲げる図書のほか、授業中に適宜指示する。なお、これらは購入する必要はない。中央図書館、あるいは身近な公共図書館なども活用して、利用してほしい。
 - ・高山正也, 岸田和明編著. 『図書館概論』改訂. 樹村房, 2017. (現代図書館情報学シリーズ, 1). ISBN:978-4-88367-271-4
 - ・菅谷明子著. 『未来をつくる図書館：ニューヨークからの報告』岩波書店, 2003. (岩波新書, 新赤版837). ISBN:978-4-00-430837-9
 - ・常世田良著. 『浦安図書館にできること』勁草書房, 2003. (図書館の現場, 1). ISBN:978-4-326-09827-9
 - ・ジョン・ポールフリー著, 雪野あき訳. 『ネット時代の図書館戦略』原書房, 2016. ISBN:978-4-562-05284-4
 - ・猪谷千香著. 『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』筑摩書房, 2014. (ちくま新書, 1051). ISBN:978-4-480-

06756-2

- ・大橋崇行著. 『司書のお仕事』1-2巻. 勉誠出版, 2018-2020. (ライブラリーぶっくす). ISBN:978-4-585-20061-1, 978-4-585-20075-8
- ・門井慶喜著. 『おさがしの本は』 光文社, 2011. (光文社文庫). ISBN:978-4-334-76322-0
- ・高田大介著. 『図書館の魔女』1-4巻. 講談社, 2016. (講談社文庫, [た127-1]-[た127-4]). ISBN:978-4-06-293365-0, 978-4-06-293366-7, 978-4-06-293387-2, 978-4-06-293388-9
- ・日本図書館協会用語委員会編. 『図書館用語集』4訂版. 日本図書館協会, 2013. ISBN:978-4-8204-1311-0
- ・日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 『図書館情報学用語辞典』第5版. 丸善出版, 2020. ISBN:978-4-621-30534-8
- ・日本図書館情報学会編. 『図書館情報学事典』丸善出版, 2023. ISBN978-4-621-30820-2.
- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 『図書館ハンドブック』第6版補訂2版. 日本図書館協会, 2016. ISBN:978-4-8204-1609-8

オフィスアワー

その他特記事項

授業で扱う内容は、現在の図書館活動そのものである。関連文献を提示したり、課題を課したりするので、それらを活用して復習することはもちろん、自らが図書館に積極的に足を運ぶことで、実際の活動を確認、検討することを期待する。

参考URL

備考

科目名： 図書館情報技術論／マルチメディア技術**担当教員： 常川 真央**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-LI1-M102

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:41 更新者：AA2133

更新日時：2024-01-19 13:56:59

履修条件・関連科目等

「図書館情報学概論」を並行して学修していることが望ましい。なお、社会情報学専攻の学生は「情報システム設計」「情報システム開発」を履修することで、図書館における情報システムの設計・調達に関する知識やスキルを獲得することができる。また、「デジタル・ライブラリ」を履修することで、図書館におけるデジタルアーカイブの設計・構築に関する知識やスキルを獲得することができる。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等、および、図書館業務とサービスにおける情報技術やインターネットの活用について解説する。

科目目的

本科目は図書館情報学コースにおける「図書館をモデルにして情報の管理・提供について理解する能力」を取得するための必修科目に位置づけられている。また、司書課程における必修科目でもある。図書館と情報通信技術(ICT)の関係性を理解し、図書館における情報システムの設計、調達、運用に必要な基礎知識を学ぶことを目指す。さらに、情報社会論やバリアフリーなど情報技術と社会の関係性を図書館サービスの視点から理解することも目指す。

到達目標

1. 図書館業務で情報技術が必要とされる理由を論理的に説明することができる
2. ウェブやメタデータに関する一般的な知識を理解し、論理的に説明することができる
3. 図書館に特有の情報技術・規格を理解し、論理的に説明することができる
4. 図書館業務への最新の情報技術を適用した事例を把握しており、情報技術を活用した図書館サービスの発展の方向性について論じることができる。

授業計画と内容

- 第01回 図書館と情報技術
- 第02回 コンピュータの基礎(1)：コンピュータの仕組み
- 第03回 コンピュータの基礎(2)：情報の符号化と計算
- 第04回 ネットワークの基礎(1)：通信ネットワークの仕組み
- 第05回 ネットワークの基礎(2)：情報の交換
- 第06回 情報検索(1) 情報検索システム
- 第07回 情報検索(2) ウェブ情報検索
- 第08回 データベース(1) 概念設計
- 第09回 データベース(2) 論理設計
- 第10回 インターネットとWeb
- 第11回 UI/UXデザイン
- 第12回 デジタルメディア／デジタル・アーカイブ
- 第13回 情報セキュリティ／ITマネジメント
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 授業で紹介した情報技術についての基礎知識を正確に理解しているかを評価する。
レポート	0%
平常点	40% 授業への参加・貢献度、受講態度(意見の表明、ほかの学生と協調して学ぶ態度等)の状況を基準とする。授業への参加は出席や課題の提出状況によって評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

参加を確認できない授業が4回以上ある者、期末試験を受験しない者は成績評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

期末試験または各回において、Manabaにおける小テスト機能などを利用して理解度の確認を図る。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

2014年4月～2019年3月、日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所図書館にて情報システム担当業務に携わる

実務経験に関連する授業内容

現場における図書館情報システムの設計・調達・運用に携わった経験から、科目における知識が実際の業務でどのように生かされるかを例示していく。

テキスト・参考文献等

(テキスト)

山本順一, 塩崎亮, 今井福司, 河島茂生. 『図書館情報技術論』ミネルヴァ書房, 2022, 京都府. 第2版. 講座 図書館情報学 4. ISBN:9784623093908

(参考文献)

適宜講義にて提示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は2020年度以前は「マルチメディア技術」として履修します。「マルチメディア技術」は教職（情報）の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： 情報サービス論**担当教員： 小山 憲司**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火2

配当年次：2年次配当

科目ナンバー： LE-IM2-M301

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 07:02:44 更新者： AA1627

更新日時： 2024-02-10 15:23:39

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

図書館では、図書の閲覧や貸出といった資料提供サービスのほか、利用者から寄せられるさまざまな質問や相談に対して回答したり、情報や情報源を提供、紹介したりするなど、情報そのものを提供するサービスも展開している。これを情報サービスと呼ぶ。本科目では、図書館における情報サービスの意義を理解し、その具体的なサービスであるレファレンスサービスや情報検索サービスの基礎を中心に総合的に学習する。

科目目的

情報サービスを構成する各種サービス、それを実現するための基本的な知識や技術、考えかたなどを修得する。情報サービスを実践するには、カリキュラム履修上の「専門的学識」「幅広い教養」を必要とするほか、利用者の求めに応じた「複眼的思考」を身につけておくことが求められる。

到達目標

この科目では、具体的に次のことを目標とする。

- ①情報サービスに関する用語を理解し、説明できる。
- ②情報社会における図書館の役割とその現状について理解し、概説できる。
- ③図書館で提供されるサービスの内容を理解するとともに、その一つである情報サービスの種類と内容について理解を深め、説明できる。
- ④情報サービスの提供方法について理解し、説明できる。
- ⑤情報サービスのプロセスに関する基礎的知識を修得し、説明できる。
- ⑥情報サービスの運営に必要な活動や課題について理解し、説明できる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報社会と図書館
- 第3回 情報サービスとは
- 第4回 情報サービスの種類
- 第5回 各種図書館の情報サービスとその類型
- 第6回 レファレンスプロセス(1)：レファレンスプロセスの構造と内容
- 第7回 レファレンスプロセス(2)：レファレンスインタビュー(含実習、ペアワーク)
- 第8回 情報検索サービスとその展開(1)：情報検索の種類とその理論
- 第9回 情報検索サービスとその展開(2)：データベースとその技法
- 第10回 情報サービスの管理と運営
- 第11回 発信型情報サービスの展開
- 第12回 情報の仲介者としての図書館および司書(1)：課題の検討
- 第13回 情報の仲介者としての図書館および司書(2)：ふりかえり(含グループワーク)
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- ①事前課題として、テキストや配布資料の閲読、映像の視聴、宿題を課す(課さないこともある)。
- ②事後課題として、小テスト、ふりかえり(コメントペーパーの提出)、映像の視聴、宿題を課す(課さないこともある)。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	科目の目的、到達目標に記した内容を達成できているかどうかを期末レポートにより評価する。
平常点	70%	授業中課題および宿題の提出状況および内容、授業への参加・貢献度を基準とする。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提条件：参加率が7割に満たない場合は評価の対象外とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ①受講生からの質問はメール、manabaの掲示板などを用いて回答する。
- ②オフィスアワーを設ける。具体的な時間は、初回の授業で連絡する。
- ③授業で課した課題は授業内で取り上げ、解説する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
 - ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ①授業で用いたスライド資料、配布資料等は、manabaに掲載する。
- ②授業中、あるいは授業後にresponを用いて、アンケートやふりかえりを行う。また、回答結果を受講生と共有する。
- ③事前課題、もしくは事後課題として、映像資料を配信する。
- ④宿題、および期末レポートは、manabaを用いて回収する。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

担当者は、1997年4月から2006年3月まで、東京大学附属図書館等において、図書館職員として図書館サービス、情報組織化、電子情報資源の提供などの実務経験を有する。

実務経験に関連する授業内容

図書館実務にかかる話題にも適宜触れながら、授業を展開する。

テキスト・参考文献等

- (1) テキスト
・山崎久道、原田智子編著、『情報サービス論』改訂。樹村房、2019。（現代図書館情報学シリーズ、5）ISBN:978-4-88367-295-0
- (2) 参考文献
次に掲げる図書のほか、授業で適宜紹介する。なお、これらは購入する必要はない。中央図書館、あるいは身近な公共図書館なども活用して、利用してほしい。
 - ・まちの図書館でしらべる編集委員会編、『まちの図書館でしらべる』柏書房、2002。ISBN:978-4-7601-2171-7
 - ・高田高史著、『図書館のプロが教える<調べるコツ>』柏書房、2006。ISBN:978-4-7601-2990-4
 - ・高田高史著、『図書館が教えてくれた発想法』柏書房、2007。ISBN:978-4-7601-3246-1

- ・井上真琴著. 『図書館に訊け!』筑摩書房, 2004. (ちくま新書, 486). ISBN:978-4-480-06186-7
- ・小林昌樹著. 『調べる技術 : 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』皓星社, 2022. ISBN978-4-7744-0776-0
- ・入矢玲子著. 『プロ司書の検索術 : 「本当に欲しかった情報」の見つけ方』日外アソシエーツ, 2020. (図書館サポートフォーラムシリーズ). ISBN:978-4-8169-2851-2
- ・山崎久道著. 『情報貧国ニッポン : 課題と提言』日外アソシエーツ, 2015. (図書館サポートフォーラムシリーズ). ISBN:978-4-8169-2540-5
- ・村橋勝子著. 『情報便利屋の日記 : 専門図書館への誘い』樹村房, 2016. ISBN:978-4-88367-265-3
- ・M. K. バックランド著, 高山正也, 桂啓壮訳. 『図書館サービスの再構築 : 電子メディア時代へ向けての提言』勁草書房, 1994. ISBN:978-4-326-00013-5
- ・F. W. ランカスター著, 中村倫子, 三輪眞木子共訳. 『図書館サービスの評価』丸善, 1991. ISBN:978-4-621-03640-2
- ・フィリップ・コトラー著, 月谷真紀訳. 『コトラーのマーケティング・マネジメント』ピアソン・エデュケーション, 2002. ISBN:978-4-89471-658-2
- ・阿部佳著. 『わたしはコンシェルジュ』講談社, 2010. (講談社文庫). ISBN:978-4-06-276646-3
- ・今まど子, 小山憲司編著. 『図書館情報学基礎資料』第5版. 樹村房, 2024. ISBN:978-4-88367-386-5
- ・日本図書館協会用語委員会編. 『図書館用語集』4訂版. 日本図書館協会, 2013. ISBN:978-4-8204-1311-0
- ・日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 『図書館情報学用語辞典』第5版. 丸善出版, 2020. ISBN:978-4-621-30534-8
- ・日本図書館情報学会編. 『図書館情報学事典』丸善出版, 2023. ISBN978-4-621-30820-2.
- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 『図書館ハンドブック』第6版補訂2版. 日本図書館協会, 2016. ISBN:978-4-8204-1609-8

オフィスアワー

その他特記事項

授業で扱う内容は、現在の図書館活動そのものである。関連文献を提示したり、課題を課したりするので、それらを活用して復習することはもちろん、自らが図書館に積極的に足を運ぶことで、実際の活動を確認、検討することを期待する。

参考URL

備考

科目名： 図書館サービス概論**担当教員： 長谷川 幸代**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：金1

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-LI2-M303

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:44 更新者：AC9672

更新日時：2024-01-07 23:00:19

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

知的情報資源へのアクセスを保障するという図書館の使命を達成するために、図書館は誰のために、どのようなサービスをするのか。資料提供、情報提供、図書館ネットワークや関係機関との連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種サービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説する。また、図書館運営に必要な各種法律・制度について解説する。

科目目的

この科目は、図書館サービスの理論と実務について学ぶための導入科目に位置づけられる。図書館サービスを構成する各種サービス、それを実現するための基本的な知識や技術、考えかたなどを修得することを目的とする。

到達目標

図書館サービスの意義と理念を理解し、種類、方法、事例などを習得する。図書館のサービスを実際に行うにあたり必要となる、理念、法律、制度、綱領等について理解し説明できる。図書館サービスの種類と各サービスの詳細な内容および提供方法を理解し、論述することができる。サービスの事例等を参考にしながら、各図書館の特徴と法的根拠に応じたサービスを検討し、発案できる。

授業計画と内容

- 第1回 情報サービス機関としての図書館（各種図書館の使命と機能・要素）
- 第2回 図書館サービスの意義と理念、種類
- 第3回 公共図書館サービスの歴史
- 第4回 資料提供サービス1（資料提供サービスの意義・概要、貸出・閲覧サービス）
- 第5回 資料提供サービス2（予約・リクエスト、複写、文献送付など）
- 第6回 情報提供サービス1（レファレンスサービス、利用教育、読書相談）
- 第7回 情報提供サービス2（カレントアウェアネス、情報検索、その他）
- 第8回 利用対象別図書館サービス1（年齢別サービス）
- 第9回 利用対象別図書館サービス2（障害者向けサービス、多文化サービス、団体向けサービスなど）
- 第10回 図書館サービスと著作権
- 第11回 サービスとコミュニケーション
- 第12回 図書館サービスとネットワーク
- 第13回 多様なサービス
- 第14回 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 50% | 図書館のサービスにおける基本的事項について説明し、および授業内容をもとにサービスを発展的に検討できるかを評価する。 |
| レポート | 0% | |

平常点 50% 授業参加、授業態度、授業内容に関する記述の提出を評価する。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

質問は授業中のほか、メール、manabaの個別指導などを用いて回答する。
授業内で検討した課題については、後で共有する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを通じて質疑応答を行う。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

・テキストは使用しない。manabaを通じて、授業資料を配布する。

【参考文献】

高山正也、村上篤太郎編著、『改訂 図書館サービス概論』樹村房、2019。(現代図書館情報学シリーズ4)
今まど子、小山憲司編著『図書館情報学基礎資料 第3版』樹村房、2020。
後藤敏行著『図書館の法令と政策：2016年増補版』樹村房、2016。
菅谷明子著『未来をつくる図書館—ニューヨークからの報告—』(岩波新書)岩波書店、2003。
猪谷千香著『つながる図書館—コミュニティの核をめざす試み—』筑摩書房、2014。
神代浩著『困ったときは図書館へ—図書館海援隊の挑戦—』悠光堂、2014。
大串夏身著『まちづくりと図書館：人々が集い、活動し創造する図書館へ』青弓社、2021。

オフィスパワー

その他特記事項

図書館や情報社会関連のニュースや事例をよく把握するよう努めること。
連絡は、メールまたはmanaba個別指導を利用すること。

参考URL

備考

科目名： 図書館情報資源概論**担当教員： 児玉 関**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：LE-LI2-M305

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 07:02:45 更新者：AD1429

更新日時：2024-01-09 12:10:26

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

図書館には多くの、そして様々な資料があります(図書館情報学では資料のことを「情報資源」と呼びますが、ここではイメージしやすいよう「資料」を用います)。図書館とは資料あつての施設ですが、では資料はどうやって集められているのでしょうか?資料は勝手気ままに集められるのではなく、利用者を想定し、ニーズを考慮し、資料の特性を考え、収集方針と照合し、蔵書全体とのバランスを検討するなどして集められています。そのようにして構築された図書館の蔵書(所蔵する資料の集合体)は、その図書館の特徴や魅力になります。したがって資料の収集や管理は図書館にとって必要不可欠な業務といえます。その基本を学ぶのが図書館情報資源概論です。図書館司書課程において資料に関する科目は多くありますが、図書館情報資源概論では資料を学ぶための入門編として図書館が扱う資料を総合的に学習します。

科目目的

図書館情報資源概論では、大きく「資料論」、「出版流通論」、「蔵書論」の3部構成で資料について解説します。図書館が扱う資料の種類や特徴、資料の流通経路や入手方法、蔵書の構築方法などについての知識を深めることを目的とします。

到達目標

図書館情報資源概論では、図書館における資料の位置付けを考察することで、今後の資料に関する専門科目の学びに必要な以下3点の基礎知識修得を目標とします。

1. 図書館が扱う資料の種類、特徴を理解できるようになる
2. 資料の流通経路、入手方法を理解できるようになる
3. 図書館の蔵書構築方法がどのようなものかイメージできるようになる

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション/図書館資料の種類
- 第2回 資料論 (1) 図書の特徴
- 第3回 資料論 (2) 雑誌・新聞の特徴
- 第4回 資料論 (3) 小冊子・非印刷資料の特徴
- 第5回 資料論 (4) 電子資料の特徴
- 第6回 資料論 (5) 郷土資料、官庁資料、灰色文献の特徴
- 第7回 出版流通論 (1) 印刷資料
- 第8回 出版流通論 (2) 電子資料
- 第9回 蔵書論 (1) 蔵書とはなにか
- 第10回 蔵書論 (2) 選書
- 第11回 蔵書論 (3) 受入
- 第12回 蔵書論 (4) 除籍・蔵書点検
- 第13回 蔵書論 (5) 蔵書評価
- 第14回 課題と展望、まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習：各回の授業の終わりに、次回講義のための参考資料を紹介しますので、それに目を通して授業に臨んでください。
復習：各回、授業のポイントに関する課題を出しますので、復習を兼ねて取り組んでください。課題は指定期日までに提出してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	科目の目的, 到達目標の達成レベル, 及び, 総合的な理解度を, 期末試験をもって評価します。
レポート	40%	授業内容の理解度と説明力, 及び, 学習プロセスにおけるがんばり度を, 各回の振り返りを兼ねた課題から評価します。
平常点	10%	授業参加, 受講態度を基準に評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- ・成績評価の要件は9回以上の出席と試験です。
- ・成績評価ではレポート・平常点にも重きを置いています。各回の学びにしっかり取り組んでくれるよう期待しています。
- ・成績評価については第1回の授業で詳しく説明しますので, 必ず出席してください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず, manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- ・課題は後日授業で解説します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

- ・授業で用いるスライド資料は事前にmanabaに掲載します。
- ・出席はresponを使用します。
- ・課題の出題及び提出はmanabaを用います。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

本科目担当教員は、1988年から1992年まで書店社員、1992年から2021年まで大学図書館の実務経験があります。

実務経験に関連する授業内容

図書館における実際の資料入手, 管理方法や利用者への接客など, 図書館職員の日線での授業を展開します。

テキスト・参考文献等

<テキスト>

- ・テキストは指定しません
- ・必要な資料は授業で適宜紹介します

<参考文献>

- ・岸田和明編著. 『改訂 図書館情報資源概論』. 樹村房, 2020, 東京. 現代図書館情報学シリーズ 8. (ISBN:978-4-88367-338-4)
- ・馬場俊明編著. 『図書館情報資源概論 新訂版』. 日本図書館協会, 2018, 東京. JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ, 8. (ISBN:978-4-8204-1808-5)
- ・今まど子, 小山憲司編著. 『図書館情報学基礎資料 第5版』. 樹村房, 2024, 東京. (ISBN:978-4-88367-386-5)

オフィスアワー

その他特記事項

- ・図書館が所蔵する資料について、利用者と図書館職員の立場で考えてみましょう。また資料に関する知識のみでなく、図書館における資料の位置付け、さらに大きく図書館と社会との関わりについても理解するよう努めてください。
- ・初回の授業で、授業の進め方などを説明します。できる限り出席してください。
- ・遅刻、授業内の私語、携帯やパソコンの授業外利用等は慎んでください。
- ・授業欠席の配慮事由は大学の方針に従います。
- ・本科目担当教員は非常勤講師で普段学内にいないため、質問等の連絡はメールでお願いします。メールアドレスはmanabaから配布する初回授業のオリエンテーション資料に掲載しています。

参考URL

備考
